

平成31年3月11日

春を告げる希少で美しいアマミアセビが開花！！

リュウキュウアセビの近縁種である**アマミアセビ**は、リュウキュウアセビに比べ**花が大きく、純白に輝く大変美しい花木**です。リュウキュウアセビは野生状態で絶滅、アマミアセビは絶滅寸前の状態で、2000年頃から**京都府立植物園では多くの系統を収集保存**してきました。2016年に初めて園内に植え付け今年で3



アマミアセビ

Pieris amamioshimensis Setoguchi et Y.Maeda

ツツジ科

奄美大島原産

年目を迎えます。アマミアセビは絶滅危惧種園南側に 131系統262本植栽しており、リュウキュウアセビは賀茂川門南側に 14系統23本植栽しています。見ごろは4月上旬まで。

*アマミアセビは葉や花の形態、DNA調査の結果に基づいてリュウキュウアセビとは異なる種として記載されているが、環境省のレッドリストも含め一般にはリュウキュウアセビとして取り扱われることが多い。現在リュウキュウアセビは沖縄本島において野生状態での生存株を確認できず、アマミアセビも奄美大島で野生株をほとんど見ることが出来ない。

*当園での導入の経緯：1963年に奄美大島で個体が発見され、その後1970年代前半に園芸目的で盗掘があいつぎ自生株がほとんどなくなった。京都府立植物園では京都大学の協力の下、20年ほど前から各地に残っている生存個体から挿し木により増殖を行い、系統を保存している。また、自生地への野生復帰や現地の小中学校などでの啓蒙活動を行っている。